



## 2023年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2022年10月31日

上場取引所 東 名

上場会社名 株式会社 タカキタ  
 コード番号 6325 URL <http://www.takakita-net.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 松本 充生  
 問合せ先責任者 (役職名) 管理本部長 (氏名) 中坊 督 TEL 0595-63-3111  
 四半期報告書提出予定日 2022年11月4日  
 配当支払開始予定日 2022年12月1日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家向け）

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年3月期第2四半期の業績（2022年4月1日～2022年9月30日）

#### (1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	3,830	1.2	386	3.4	414	5.9	279	6.0
2022年3月期第2四半期	3,785	19.7	373	141.9	391	129.9	263	137.6

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	24.54	24.29
2022年3月期第2四半期	22.84	22.64

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第2四半期	8,865	6,845	76.6
2022年3月期	8,647	6,899	79.2

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 6,786百万円 2022年3月期 6,848百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	5.00	—	5.00	10.00
2023年3月期	—	5.00	—	—	—
2023年3月期（予想）	—	—	—	5.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2023年3月期の業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	7,200	2.5	400	△24.5	450	△24.2	300	△25.0	26.67

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

2023年3月期2Q	14,000,000株	2022年3月期	14,000,000株
2023年3月期2Q	2,906,217株	2022年3月期	2,506,217株
2023年3月期2Q	11,379,497株	2022年3月期2Q	11,535,934株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、(添付資料)2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (4)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) キャッシュ・フローに関する説明 .....	2
(4) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	2
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	3
(1) 四半期貸借対照表 .....	3
(2) 四半期損益計算書 .....	5
第2四半期累計期間 .....	5
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書 .....	6
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(セグメント情報) .....	7
(追加情報) .....	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### （1）経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、社会経済活動の正常化が進められる中、景気は緩やかに持ち直しているものの、海外景気の下振リスクや、物価上昇、資材調達面での制約等の影響から、依然として先行き不透明な状況にあります。

このような情勢のもと、農業機械事業におきましては、新製品の投入効果や国の畜産クラスター事業\*の採択が一定程度進んだことにより、高品質な国産飼料増産と食料自給率の向上に寄与する細断型シリーズを中心としたエサづくり関連作業機の売上が伸張したものの、農業経営における生産コストの高騰による機械投資意欲の低下の影響を受け、土づくり関連作業機の受注が減少し、国内売上高は減収となりました。海外売上高につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響により営業活動の制約が続く中、オンライン展示会の活用効果による新規市場の開拓や、合弁会社からのロイヤリティ収入により増収となりました。農業機械事業全体の売上高は、前年同期比2百万円増加し36億5百万円（前年同期比0.1%増）となりました。

軸受事業におきましては、得意先からの受注の回復もあり、売上高は前年同期比42百万円増加し2億24百万円（前年同期比23.3%増）となりました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の売上高は、前年同期比45百万円増加し38億30百万円（前年同期比1.2%増）となりました。

利益面におきましては、人件費の増加や資材高騰の影響がありますものの、売上高の増加とコスト低減活動により、営業利益は前年同期比12百万円増加し3億86百万円（前年同期比3.4%増）、経常利益は前年同期比22百万円増加し4億14百万円（前年同期比5.9%増）、そして四半期純利益は前年同期比15百万円増加し2億79百万円（前年同期比6.0%増）となりました。

\* 畜産クラスター事業…政府による畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業

### （2）財政状態に関する説明

当第2四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末に比べ2億17百万円増加し、88億65百万円となりました。これは主に電子記録債権が5億31百万円、未収入金が3億56百万円それぞれ増加し、現金及び預金が6億29百万円減少したことによるものであります。

当第2四半期会計期間末における負債合計は、前事業年度末に比べ2億72百万円増加し、20億19百万円となりました。これは主に電子記録債務が2億74百万円増加したことによるものであります。

当第2四半期会計期間末における純資産は、前事業年度末に比べ54百万円減少し、68億45百万円となりました。これは主に利益剰余金が2億21百万円増加し、自己株式が2億1百万円増加、評価・換算差額等が82百万円減少したことによるものであります。

### （3）キャッシュ・フローに関する説明

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度末に比べ6億29百万円減少し、5億74百万円となりました。

また、当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果使用した資金は3億20百万円（前年同期は4億78百万円の獲得）となりました。

これは主に、税引前四半期純利益4億14百万円及び仕入債務の増加額3億40百万円がありましたものの、売上債権の増加額7億13百万円及び棚卸資産の増加額3億56百万円などがあったことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は45百万円（前年同期比38.4%減）となりました。

これは主に有形固定資産の取得による支出38百万円や無形固定資産の取得による支出15百万円などを反映したものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は2億63百万円（前年同期比168.6%増）となりました。

これは主に自己株式の取得による支出2億1百万円や配当金の支払額57百万円などを反映したものであります。

### （4）業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期の業績予想につきましては、2022年5月11日に発表いたしました通期の業績予想の数値から変更はありません。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2022年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,204,439	574,677
受取手形及び売掛金	1,107,782	891,553
電子記録債権	1,137,763	1,669,245
商品及び製品	781,851	887,942
仕掛品	139,389	192,141
原材料及び貯蔵品	321,661	519,212
未収入金	365,848	722,334
その他	15,892	28,973
流動資産合計	5,074,629	5,486,081
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	1,010,610	982,072
機械及び装置（純額）	299,783	268,194
土地	559,638	559,638
その他（純額）	173,679	182,080
有形固定資産合計	2,043,713	1,991,985
無形固定資産	209,475	187,671
投資その他の資産		
投資有価証券	956,791	836,659
その他	363,577	363,448
貸倒引当金	△666	△606
投資その他の資産合計	1,319,702	1,199,501
固定資産合計	3,572,891	3,379,158
資産合計	8,647,520	8,865,239
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	360,026	441,801
電子記録債務	502,242	776,524
短期借入金	70,000	70,000
未払法人税等	151,283	138,480
賞与引当金	113,945	113,656
その他	309,529	279,197
流動負債合計	1,507,029	1,819,660
固定負債		
退職給付引当金	175,923	153,298
役員退職慰労引当金	4,100	4,100
その他	60,841	42,928
固定負債合計	240,866	200,326
負債合計	1,747,896	2,019,987

（単位：千円）

	前事業年度 (2022年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2022年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,350,000	1,350,000
資本剰余金	832,196	832,196
利益剰余金	4,894,888	5,116,685
自己株式	△649,492	△850,692
株主資本合計	6,427,592	6,448,189
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	420,717	338,348
繰延ヘッジ損益	625	349
評価・換算差額等合計	421,342	338,698
新株予約権	50,689	58,364
純資産合計	6,899,624	6,845,252
負債純資産合計	8,647,520	8,865,239

(2) 四半期損益計算書  
(第2四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
売上高	3,785,608	3,830,665
売上原価	2,558,607	2,561,401
売上総利益	1,227,000	1,269,264
販売費及び一般管理費	853,479	882,925
営業利益	373,520	386,338
営業外収益		
受取利息	2	2
受取配当金	7,219	15,751
不動産賃貸料	11,759	11,626
その他	3,786	3,483
営業外収益合計	22,767	30,863
営業外費用		
支払利息	126	118
不動産賃貸原価	2,677	2,790
リース解約損	2,000	—
その他	357	276
営業外費用合計	5,161	3,185
経常利益	391,126	414,016
特別利益		
固定資産売却益	269	499
特別利益合計	269	499
特別損失		
固定資産廃棄損	—	31
投資有価証券売却損	—	211
特別損失合計	—	242
税引前四半期純利益	391,396	414,273
法人税、住民税及び事業税	117,106	124,064
法人税等調整額	10,860	10,943
法人税等合計	127,966	135,008
四半期純利益	263,429	279,265

## (3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益	391,396	414,273
減価償却費	115,485	128,736
株式報酬費用	10,362	7,675
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△30,402	△22,625
賞与引当金の増減額 (△は減少)	4,703	△288
受取利息及び受取配当金	△7,221	△15,753
支払利息	126	118
固定資産廃棄損	—	31
固定資産売却損益 (△は益)	△269	△499
リース解約損	2,000	—
売上債権の増減額 (△は増加)	△217,445	△713,773
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△74,861	△356,394
仕入債務の増減額 (△は減少)	334,053	340,752
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△42,199	3,104
その他	△2,301	△1,050
小計	483,424	△215,693
利息及び配当金の受取額	18,544	30,116
利息の支払額	△125	△119
法人税等の支払額	△23,404	△135,009
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>478,439</b>	<b>△320,705</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△49,672	△38,503
有形固定資産の売却による収入	269	500
投資有価証券の売却による収入	—	596
無形固定資産の取得による支出	△32,681	△15,650
投資不動産の賃貸による収入	11,759	11,626
貸付金の回収による収入	60	60
その他	△3,480	△4,058
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△73,745</b>	<b>△45,429</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
自己株式の取得による支出	△39,463	△201,456
配当金の支払額	△57,755	△57,764
リース債務の返済による支出	△929	△4,406
その他	10	—
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△98,138</b>	<b>△263,627</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	4	—
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	306,560	△629,762
現金及び現金同等物の期首残高	861,659	1,204,439
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,168,219	574,677

## (4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

## I 前第2四半期累計期間（自2021年4月1日至2021年9月30日）

株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

## II 当第2四半期累計期間（自2022年4月1日至2022年9月30日）

株主資本の金額の著しい変動

当社は、2022年7月28日開催の取締役会決議に基づき、自己株式400,000株の取得を行いました。この結果、当第2四半期累計期間において自己株式が201,200千円増加し、当第2四半期会計期間末において自己株式が850,692千円となっております。

(セグメント情報)

## I 前第2四半期累計期間（自2021年4月1日至2021年9月30日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期損益計 算書計上額 (注) 2
	農業機械事業	軸受事業			
売上高	3,603,189	182,418	3,785,608	—	3,785,608
セグメント利益 又は損失(△)	384,242	△29,931	354,311	19,209	373,520

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、鉄屑等のスクラップ売却代であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## II 当第2四半期累計期間（自2022年4月1日至2022年9月30日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期損益計 算書計上額 (注) 2
	農業機械事業	軸受事業			
売上高	3,605,753	224,912	3,830,665	—	3,830,665
セグメント利益 又は損失(△)	363,908	△3,184	360,724	25,613	386,338

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、鉄屑等のスクラップ売却代であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(追加情報)

前事業年度の有価証券報告書の(追加情報)(新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積り)に記載した新型コロナウイルス感染症による影響に関する仮定について重要な変更はありません。